



## 改定給特法、教員不足、高校つぶし反対 10/2(木) 北河内教組で枚方市駅宣伝

高い関心  
大きな反応

枚方教組は、10月2日(木)18:30から枚方市駅南口で、北河内の教職員組合とともに、定額働かせ放題継続の給特法改定問題、深刻な実態が拡大し続ける教員不足問題、さらには大阪で進められようとしている、門真西高校募集停止や今後15年で32校の公立高校統廃合計画の問題を、市民に訴えました。

急な呼びかけに約20人の組合員・退職教職員が参加して、教員不足の実態や教員定数増などの教育全国署名、大阪の高校つぶし反対署名を訴えると、自ら署名に協力してくれる方や、宣伝に励ましの声をかけてもらえる方、立ち止まってハンドマイクの訴えに耳を傾けてもらえる方など、関心の高さや、反応の大きさに、参加者も勇気づけられました。

今学校、教育で起きていることが、保護者や市民からは見えづらく、複雑になっているだけに、積極的に市民向けの訴え、現状を知らせる取り組みが重要になっています。



## 養護教諭複数配置署名を広げよう！ 300人で複数に

### 文科省は複数配置基準小851人⇒751人、中801人⇒701人方針も

文科省は来年度予算で、養護教諭の複数配置の基準を、小学校で児童数851人以上、中学校で生徒数801人以上から、それぞれ100人ずつ引き下げる方針を打ち出しています。今後の政府、財務省殿の交渉で決定していきます。

しかし、枚方市の今年度の児童生徒数で、複数配置拡大の対象となるのは小学校1校、中学校2校、ですらに加配などで、すでに複数配置になっている学校もあります。

養護教諭は、熱中症、アレルギー対応、インフル・コロナなど感染症など命にかかわる対応で毎日懸命の対応をされています。さらに、子どもの心のケアでも重要な役割を果たしています。

しかし、複雑で膨大な対応が求められる、行きつく暇もない業務で心身ともに疲弊している実態も広がっています。子どもも養護教諭もゆとりが持てるよう300人以上からの複数配置実現をめざして、署名を広げていきましょう。

## 枚方市の児童養護施設開設、学校での受け入れに向け 必要な情報、打ち合わせ、準備の取り組みを

市教委に  
要望書

枚方教組は、10月2日(木)に市教委の児童生徒課に対し、来年4月から開設、学校への児童生徒受け入れ開始予定の、児童養護施設に関する対応について、要望書を提出。

受け入れ校の教員も要望書提出に参加、学校の実情や現場の声を伝えるとともに、市教委が学校と連携して事前の準備や体制づくり、必要な情報、研修などに取り組むように強く求めました。

### 枚方市で児童相談所開設予定、児童養護施設の開設も検討

枚方市では、児童虐待、子育て支援対応の充実を目指して、療育手帳の判定や虐待での保護措置などができるなど、重要な権限と役割を持つ児童相談所を開設する方針が決まり、最短で20230(令和12)年に開設する計画が進められています。

児童相談所開設に合わせて、枚方でも児童養護施設の開設を検討することが課題とされてきました。

### 7月に学校に伝達、来年4月から児童生徒受け入れ

#### 急な計画発表、現場も「準備、研修どうする！」「何をしたらいい？」

今回開設予定の児童養護施設は市の公設、公営ではなく、民間による民設民営での建設となっており、急な計画発表となり、地域の学校への受け入れまで時間が極めて限られた計画となっています。

施設受け入れの学校に計画が伝わったのが7月、受け入れ開始は来年4月とされ、急遽施設見学や、他市の施設受け入れ校との懇談に取り組んでいますが、急な対応に不安や懸念の声も聞かれます。

施設の子どもたちと、学校の子どもたちの関係づくりをどうしていくべきか、受け入れに際してどんな配慮が必要なのか、こんな時どのようにクラスで伝えたらいいのか、検討したり、事前に準備すべきことはどんなことがあるのか…。

### 教育委員会として責任をもって、学校と連携した事前の取り組みを

教育委員会として、責任をもって、児童養護施設の児童生徒受け入れに当たって、必要な情報、研修機関の保障、施設側との連携・検討会議の体制づくり、他市他府県の受け入れ地域の学校の経験の共有などに取り組むことが何より求められます。

何より、委員会が学校と受け入れ開始に向けた事前の検討、連絡会の定期的な機会をつくり、現場の声、疑問などをくみ上げて、これに対応しながら準備を進めるべきです。

### 学校が事前の取り組みに注力できるよう、課題、負担の軽減を

受け入れ校には現在、文科省の研究指定校となっており、多大な労力が割かれています。事前準備や検討に頭や手が回らないようなことも懸念されます。

忙しすぎて、受け入れのことを考える余裕もないという声も職場から出ています。

研究指定も返上を含め見直すなど大幅な市教委などからの課題、業務負担の軽減に取り組むべきです。

#### 主な要望事項

- ① 府教委に加配の増員を強く要望すること
- ② 市教委も非常勤含め加配、増員を
- ③ スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーを当該校に、専任・常勤で配置を
- ④ 学校に対し情報提供、研修機会を積極的に
- ⑤ 学校の要望に対応できる、市教委の体制づくりを
- ⑥ 他市他府県の受け入れ校の経験を共有できるような対応を、施設側との連携、交流機会の設定を
- ⑦ 研究授業、その他の市教委からの課題の負担軽減、研究指定の中止を含めた見直しを

## 枚方市欠員 小:3名、中:4名(5/1)⇒小:5名、中:11名に増加 「笑顔の学校」で時間外減少、なのに教員不足年々深刻に

枚方市の10/1時点の欠員が小学校5名、中学校11名になっていることが市教委から示されています。これは府費常勤講師(定数内講師、病休・育産休代替講師)だけの数字になります。

一方で、この数字は学校現場の実態、現場の実感から大きな食い違いも感じられるという声も出ています。

### 実態はさらに深刻 4名、5名足りないという学校も

今年は4月初めから、ダブルカウントの市費講師は16人が未配置で小学校でも36人学級の学年、中には1つの学校で2学年で35人超学級で困難な対応を強いられている学校もあります。

2学期に入り、さらに育産休に加えて、病休に入る教職員もあちこちの学校で増えているという実態が寄せられています。欠員には、1か月未満の未配置などはカウントされていないこともあります。

昨年の事例でも、正規の教諭の代替に非常勤を配置する場合もあり、中学校などでは臨時免許で違う教科の先生が授業せざるを得なかった例もあり、上記の数字だけでは、教員不足の実態は把握できないといえます。

学校によっては、時期によって、3名、5名も不足のまま授業教育活動を他の先生たちがやりくりして回さざるをえず、大きな負担が強いられ、他の先生たちもいつ倒れても不思議でないという声さえ届いています。

### 大阪府160名の欠員、川崎市では168人(5/1)、教員不足深刻化、国際調査でも

MBS ニュースで大阪府教育庁が9/1時点で160人の欠員(大阪、堺、豊能除く)を明らかにしています。神奈川県川崎市では5/1で168人の欠員があると、川崎市教委が明らかにしています。

OECDが行う国際調査(TALIS2024)でも、学校で教育指導を進めるうえで妨げになっている要因で、「教員不足」が小学校で前回より倍増しており、教員不足の深刻化が浮き彫りになっています。

### 原因は「保護者クレーム」？ 一方で文科省、委員会つぎつぎ現場に課題

#### 「条件整備なき高い理想、目標の、現場への丸投げ」が教員を追い詰める

原因として「保護者クレーム」も大きく取り上げられますが、文科省、委員会の現場への課題を増やしてきた点も見逃せません。「小中一貫教育」「幼保小連携・架け橋プログラム」「個別最適な学びの実現」「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」...

日本の文部科学省や教育委員会は、政策に見合う教員数、指導体制を整備することなく、「先進的な理念、目標」を現場に丸投げして、現場の負担と犠牲で対応させてきましたといえます。

このため学校現場に困難が広がり、教員が疲弊してきたことは明らかです。

### 枚方は「笑顔の学校」で時間外業務時間大幅減、なのに教員不足は深刻に

#### 市教委からの課題見直し、削減すすめ、抜本的な業務改善方針を

枚方市はここ数年、「笑顔の学校」の取り組みで働き方改革を進め、時間外の業務時間を大幅に減少できたしてきました。にもかかわらず、教員不足は深刻になる一方で、市費講師の欠員も年々厳しくなっています。

改定給特法で求められる、業務量管理計画(働き方改革計画)を策定するにあたり、市教委からの課題、指示や要求を抜本的に皆阻止、削減を進め、現場の意見を反映した計画、方針を策定することが重要です。

前号記事内容の訂正について「市費教職員は、府費教職員と違い、枚方市の本庁が任用して、市の給与や権利制度を原則として適用しています。」の部分で「市費教職員は、府費教職員と違い、枚方市教育委員会が任用して、市の本庁が決めた市の給与や権利制度を原則として適用しています。」と訂正します。

## 秋の交流行事 11月8日(土) 12:30 初秋の嵐山散策&花のいえ昼食会

忙しい中、初秋の嵐山の風景を見ながら、ひと時豪華な食事と、楽しい会話を楽しみませんか？  
公立学校共済組合保養所の「嵐山・花のいえ」で、おいしい食事を囲みながら、落ち着いた部屋で、ゆっくりお話をし、癒しの時間、元気をもらえる時間にできます。嵐山周辺の散策、花のいえの人工温泉のきれいな大浴場も利用できます。

お子様メニューもあります。ぜひ、職場の先生と一緒に参加してください。

参加費 大人2000円(大教済組合員以外は3500円)

お子様メニューは別途

先着15名 右のQRコードから、  
申し込みをお願いします。



季節の昼御膳「京花御膳」



## 第5回まなび庵 枚方教組・戦争と平和、平和教育を考える交流会

### 「戦争と平和、学校と教育でなにができるのか？」

守口市の先生の平和教育の取り組み、枚方の小学校の先生の取り組みなどを聞きながら先生たちの、ガザやウクライナ、高まる排外主義、日本の戦争準備態勢の急速な進行などへのおもしろい、ふだん学校で取り組んでいること、アイデアなども含めて交流します。

学校での取り組みの教材や、取り組んでみて、子どもの変化や、可能性を感じた取り組みなど、身近なものを持ち寄りあって交流できます。  
どなたでも参加できます。

10月31日(金) 18:30 枚方教組 組合事務所2階 参加費300円

## 大阪労連北河内地区協議会・秋の文化行事

### 「松元ヒロがあなたにおくるソロライブII」

「テレビで会えない芸人」なのに、ソロライブを開催すれば会場は必ず満員に  
「お笑いスター誕生」で優勝、コントグループ「ザ・ニューズペーパー」にも参加して活動、現在はソロでステージ活動。

政治ネタにもタブーなしで切り込み、独特な舞台を展開。

落語家の故・立川談志も絶賛したそのステージ。

絶対におすすめの企画、とかつてステージを見た人たちが口を

そろえて推薦します。

テレビでは放送されないことのない、政治、社会をネタに私たちの声を代弁したパフォーマンスをぜひ見に来てください。

11月28日(金) 18:30 守口エナジーホール  
会費 2,000円(組合員の方は1,000円)

